

## 平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年2月9日

上場取引所 東

上場会社名 セイコーホールディングス株式会社  
 コード番号 8050 URL <http://www.seiko.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 村野 晃一

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長

(氏名) 石井 俊太郎

TEL 03-3563-2111

四半期報告書提出予定日 平成22年2月12日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	151,260	10.0	26	△98.4	△2,779	—	△5,486	—
21年3月期第3四半期	137,459	—	1,628	—	344	—	△2,415	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	△40.81	—
21年3月期第3四半期	△20.89	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	422,685	41,883	8.1	197.55
21年3月期	226,716	32,486	12.6	247.66

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 34,206百万円 21年3月期 28,477百万円

### 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	2.50	—	2.50	5.00
22年3月期	—	0.00	—	—	—
22年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

当社は定款において期末日を配当基準日と定めておりますが、期末の配当予想額は未定です。

### 3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	234,000	34.5	1,100	—	△3,600	—	△7,300	—	△50.70

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有

〔新規 7社 (セイコーインスツル株式会社、盛岡セイコー工業株式会社、SII NanoTechnology USA Inc.、S.I.E. Netherlands B.V.、Dalian Seiko Instruments Inc.、Seiko Instruments (Thailand) Ltd.、Seiko Instruments Singapore Pte. Ltd.、除外 1社)〕  
(注)詳細は7ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は7ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
- ② ①以外の変更 無

(注)詳細は7ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第3四半期	186,565,418株	21年3月期	116,424,000株
② 期末自己株式数	22年3月期第3四半期	13,408,464株	21年3月期	1,435,822株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年3月期第3四半期	134,461,531株	21年3月期第3四半期	115,647,327株

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 1.本資料に記載しております業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- 2.通期で当期純損失が発生することが見込まれることから、期末の配当予想額につきましては現時点では未定です。
- 3.通期の連結業績予想に関する事項につきましては、本日(平成22年2月9日)公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」および6ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。
- 4.当社は、平成21年10月1日付で、当社を完全親会社、当社持分法適用関連会社であるセイコーインスツル(株)を完全子会社とする株式交換の方法により経営統合を行いました。

## 【定性的情報・財務諸表等】

### 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間(2009年4月1日～12月31日)は、金融危機による景気後退が各国の景気対策の効果もあり、中国やその他新興国では持ち直しの動きが見られるものの、米国や欧州では、失業率が引き続き高水準で推移するなど、依然厳しい状況にあります。わが国においても、雇用、所得環境の悪化傾向が続くなか、デフレの進行など、個人消費の低迷が続いています。

このような事業環境のなか、当社の当第3四半期累計期間の連結売上高は前年同期と比べて138億円増加し1,512億円(前年同期比10.0%増)となりました。同連結売上高には、2009年10月1日付で株式交換により完全子会社としました、当社持分法適用関連会社であるセイコーインスツル(株)およびその子会社の当第3四半期(2009年10月1日～12月31日)の売上高388億円が含まれております。国内売上高は783億円(前年同期比7.5%増)、海外売上高は728億円(同12.9%増)であります。利益面では、経費削減を更に一層推し進めました結果、営業利益26百万円(前年同期比98.4%減)を計上できましたが、経常利益は27億円の損失(前年同期は経常利益3億円)となりました。また、事業構造改善費用13億円をあらたに特別損失に計上しました結果、四半期純損失は54億円(前年同期は四半期純損失24億円)となりました。

事業の種類別セグメント概況は、以下のとおりです。

#### 【事業セグメント別の概況】

##### ① ウオッチ事業

ウオッチ事業の売上高は、欧米、日本における個人消費の低迷に加えて、今期より国内時計等小売会社(株)クロノスを、ウオッチ事業からその他の事業セグメントに移管したことなどから前年より273億円減少し494億円(前年同期比35.6%減)となりました。国内は、全体としては単価の下落傾向が強まる厳しい状況が続いている一方、グランドセイコーの「セイコークォーツウオッチ40周年記念モデル」や、世界共通モデル「ブライツ・アナンタ」など、話題性がある中高級品が好調に推移しているなど、徐々にではありますが、回復の兆しが見えてきました。一方、海外は、アジアを中心に回復の動きが見られるものの、欧米市場では依然低迷が続いており、前年比で大幅な減収となりました。利益面では、引き続き経費削減を進め、営業利益は28億円(前年同期比40.9%減)を確保しました。

##### ② セイコーインスツル事業

セイコーインスツル事業の売上高は408億円、営業利益は15億円となりました。事業分野別に見ますと、主力の電子デバイス事業は、半導体等の電子部品が自動車・薄型テレビ用に堅調に推移していますが、その他のデバイスは市況回復力が弱く、先行き不透明な状況です。メカトロニクス事業は、ハードディスク用の精密加工部品が、ネットブック等の低価格パソコン等の需要回復を受け好調である一方、ウオッチムーブメントは厳しい状況が続いています。その他、システムアプリケーション事業は、主力商品である大型プリンタの北米・欧州向けの販売が景気回復の遅れから低調ですが、科学機器事業では、計測分析装置の官公庁向け受注が戻りつつあり、回復基調にあります。

### ③ プレシジョン事業

プレシジョン事業の売上高は 215 億円(前年同期比 3.4%減)となりました。電子デバイス事業では、デジタルカメラ用シャッターが引き続き堅調である一方、システム関連事業における製造業向けアプリケーションソフトの低迷が続いており厳しい状況にあります。半導体事業は、主力の水晶発振器用 IC の受注が好調に推移、売上回復基調が本格化してきました。これらの結果、営業利益 72 百万円(前年同期は営業損失 7 億円)を計上することができました。

### ④ 眼鏡事業

眼鏡事業の売上高は 182 億円(前年同期比 10.4%減)となりました。国内は、価格訴求中心のプライスショップ流通向けの販売が拡大し、販売数量の伸びにつながりましたが、平均単価が大幅に下落した結果、売上・利益ともに減少しました。海外は、米国で大手量販店向けの販売不振が依然続いている一方で、専門店チェーン向けの低単価商品の販売は好調に推移し、欧州でも大手チェーン店向けの販売が順調に売上を伸ばしました。利益面では、国内の不振に、円高による利益圧迫が加わり、営業損失 2 億円(前年同期は営業損失 1 億円)となりました。

### ⑤ クロック事業

クロック事業は売上高 65 億円(前年同期比 26.7%減)となりました。高級品不振が続くなか、普及価格帯商品に注力し、販売数量を伸ばしましたが、市場全体の低単価化による平均単価下落から、売上金額の低迷が続いています。その結果、営業損失は 6 億円(前年同期は営業損失 3 億円)となりました。

### ⑥ その他の事業

その他の事業の売上高は 218 億円(前年同期比 63.1%増)となりました。今期から国内時計等小売会社(株)クロノスを、ウォッチ事業からその他の事業セグメントに移管したことなどにより売上が増加しました。利益面では、営業損失 10 億円(前年同期は営業損失 26 億円)となりました。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

### 【資産・負債・純資産の状況】

当第 3 四半期末の総資産は 4,226 億円、前年度末に比べて 1,959 億円の大幅な増加となりました。この増加額には、10 月 1 日付で株式交換により完全子会社としました当社持分法適用関連会社であるセイコーインスツル(株)およびその子会社(以下 セイコーインスツル)の新規連結にともなう影響額 1,669 億円が含まれております。主な内訳は、セイコーインスツルの新規連結にともなう影響額に加え、その他の連結会社における現預金の増加等により流動資産が 1,023 億円増加、同様にセイコーインスツルによる影響額のほか、(株)白河エステートの新規連結による土地の増加などにより、固定資産が 936 億円増加しております。負債につきましても、セイコーインスツルの新規連結にともなう影響額 1,680 億円を含めて 1,865 億円増加し、3,808 億円となりました。純資産は、株式交換によるセイコーインスツル(株)の完全子会社化にともない、資本剰余金および自己株式が増加した他、その他投資有価証券差額金の増加、利益剰余金および為替換算調整勘定の減少などにより、前年度末に比べて 93 億円増加し 418 億円となりました。

## 【キャッシュ・フローの状況】

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、減価償却費 71 億円、未収入金の減少 22 億円、仕入債務の増加 82 億円などによりキャッシュ・フローが増加した一方、税金等調整前四半期純損失 44 億円、売上債権の増加 36 億円などによるキャッシュ・フローの減少により 112 億円となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出 19 億円、投資有価証券の償還による収入 36 億円などにより 25 億円となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済 26 億円などにより 32 億円のマイナスとなりました。

以上の結果に加え、連結範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増加 254 億円により、現金及び現金同等物の当第 3 四半期末残高は 529 億円(前年同期は 123 億円)となりました。

### 3. 連結業績予想に関する定性的情報

国内における雇用、所得環境の悪化による消費低迷やデフレの長期化、海外においても、欧米を中心とした景気動向が依然不透明であるなど、景気回復にはなお一層の時間を要するものと予想されます。これらを踏まえ、今期の連結業績の見通しにつきましては以下の通り修正いたします。

#### 【通期連結業績予想】

	今回業績予想	前回（11月10日発表値）
売上高	2,340億円（前年比 134.5%）	2,470億円
営業利益	11億円（前年比 --）	46億円
経常利益	△36億円（前年比 --）	0億円
当期純利益	△73億円（前年比 --）	△44億円

#### 【通期事業セグメント別業績予想】

単位：億円

	売上高		営業利益	
	前年	今回予想	前年	今回予想
ウォッチ事業	935	650	16	17
セイコーインスツル事業	--	875	--	46
プレジジョン事業	285	295	△9	3
眼鏡事業	266	240	△3	△3
クロック事業	114	90	△2	△8
その他の事業	202	295	△25	△14
事業別合計	1,804	2,445	△24	41

連結合計	1,740	2,340	△35	11
------	-------	-------	-----	----

（注）連結合計はセグメント間の内部売上高消去など、連結調整後の数値です。

※ 上記の予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

#### 4. その他

##### (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

平成21年10月1日付で、当社を完全親会社、当社持分法適用関連会社であるセイコーインスツル(株)を完全子会社とする株式交換の方法により経営統合を行いました。それに伴い、当第3四半期連結会計期間より同社及びその子会社を連結の範囲に含めておりますが、このうち当社の特定子会社に該当する会社は以下の7社です。

セイコーインスツル株式会社  
盛岡セイコー工業株式会社  
SII NanoTechnology USA Inc.  
S. I. E. Netherlands B. V.  
Dalian Seiko Instruments Inc.  
Seiko Instruments (Thailand) Ltd.  
Seiko Instruments Singapore Pte. Ltd.

##### (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

###### ①簡便な会計処理

###### 1) 棚卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算定に関しては、主として、実地棚卸を省略し、当第2四半期連結会計期間末の実地棚卸高を基礎として、合理的な方法により算定する方法によっております。

###### 2) 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

###### ②四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

##### (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

###### (完成工事高及び完成工事原価の計上基準の変更)

「工事契約に関する会計基準」（企業会計基準第15号 平成19年12月27日）及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日）を当第1四半期連結会計期間より適用し、当第1四半期連結会計期間に着手した工事契約から、当第3四半期連結会計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

なお、この変更に伴う連結財務諸表及びセグメント情報に与える影響は軽微であります。

5. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	59,915	17,484
受取手形及び売掛金	53,106	26,031
商品及び製品	42,429	31,058
仕掛品	11,122	1,962
原材料及び貯蔵品	9,623	1,500
未収入金	2,976	3,109
繰延税金資産	2,880	1,396
その他	6,417	3,394
貸倒引当金	△1,716	△1,508
流動資産合計	186,754	84,430
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	112,707	40,335
機械装置及び運搬具	96,787	16,909
工具、器具及び備品	35,526	13,870
減価償却累計額	△161,531	△38,882
土地	80,585	52,576
建設仮勘定	2,430	173
その他	876	560
有形固定資産合計	167,383	85,543
無形固定資産		
のれん	12,405	656
その他	12,368	9,337
無形固定資産合計	24,774	9,994
投資その他の資産		
投資有価証券	33,642	40,279
繰延税金資産	3,632	1,696
その他	10,040	5,112
貸倒引当金	△3,541	△341
投資その他の資産合計	43,772	46,747
固定資産合計	235,930	142,285
資産合計	422,685	226,716



(単位：百万円)

当第3四半期連結会計期間末  
(平成21年12月31日)前連結会計年度末に係る  
要約連結貸借対照表  
(平成21年3月31日)

負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	46,219	15,642
短期借入金	100,156	41,452
1年内返済予定の長期借入金	76,662	43,007
未払金	9,451	5,104
未払法人税等	791	303
繰延税金負債	65	67
賞与引当金	1,498	1,232
その他の引当金	655	691
その他	9,865	4,985
流動負債合計	245,366	112,487
固定負債		
長期借入金	89,137	57,573
繰延税金負債	6,185	1,822
再評価に係る繰延税金負債	5,490	5,490
退職給付引当金	27,084	10,323
その他の引当金	1,503	1,071
負ののれん	1,420	1,704
その他	4,613	3,757
固定負債合計	135,435	81,742
負債合計	380,802	194,229
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	14,770	447
利益剰余金	15,482	21,283
自己株式	△2,985	△593
株主資本合計	37,267	31,137
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,615	663
繰延ヘッジ損益	△30	31
土地再評価差額金	3,095	3,095
為替換算調整勘定	△7,741	△6,449
評価・換算差額等合計	△3,060	△2,659
少数株主持分	7,676	4,008
純資産合計	41,883	32,486
負債純資産合計	422,685	226,716

(2) 四半期連結損益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	137,459	151,260
売上原価	82,915	99,376
売上総利益	54,544	51,884
販売費及び一般管理費	52,916	51,857
営業利益	1,628	26
営業外収益		
受取利息	207	96
受取配当金	522	176
持分法による投資利益	1,185	—
その他	930	1,292
営業外収益合計	2,845	1,565
営業外費用		
支払利息	1,938	2,906
為替差損	1,216	—
その他	974	1,464
営業外費用合計	4,129	4,371
経常利益又は経常損失(△)	344	△2,779
特別利益		
固定資産売却益	—	221
投資有価証券売却益	600	—
特別利益合計	600	221
特別損失		
固定資産除却損	467	—
減損損失	—	456
事業構造改善費用	—	1,336
関係会社貸倒引当金繰入額	111	110
特別損失合計	578	1,903
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	366	△4,461
法人税、住民税及び事業税	1,326	1,141
法人税等調整額	1,304	△262
法人税等合計	2,631	878
少数株主利益	151	146
四半期純損失(△)	△2,415	△5,486

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	366	△4,461
減価償却費	4,031	7,153
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△66	△500
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△95	1
貸倒引当金の増減額(△は減少)	69	124
受取利息及び受取配当金	△729	△273
持分法適用会社からの配当金の受取額	12	204
支払利息	1,938	2,906
為替差損益(△は益)	613	△225
持分法による投資損益(△は益)	△1,185	845
減損損失	—	456
投資有価証券売却損益(△は益)	△600	—
固定資産売却損益(△は益)	—	△221
固定資産除却損	440	95
売上債権の増減額(△は増加)	△885	△3,601
たな卸資産の増減額(△は増加)	△8,850	1,953
未収入金の増減額(△は増加)	—	2,217
仕入債務の増減額(△は減少)	8,135	8,293
その他	△322	△452
小計	2,873	14,514
利息及び配当金の受取額	729	273
利息の支払額	△1,866	△2,619
法人税等の支払額	△1,419	△941
営業活動によるキャッシュ・フロー	316	11,227
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△4,936	△1,963
有形固定資産の売却による収入	288	471
投資有価証券の取得による支出	△3,305	△264
投資有価証券の売却による収入	3,764	46
投資有価証券の償還による収入	—	3,600
貸付けによる支出	△2,173	△572
貸付金の回収による収入	501	548
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△1,106	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	174
その他	△1,761	558
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,728	2,598

(単位：百万円)

	前第3 四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3 四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	130,047	349,224
短期借入金の返済による支出	△119,169	△357,001
長期借入れによる収入	7,000	31,380
長期借入金の返済による支出	△9,301	△26,291
配当金の支払額	△1,451	△290
その他	△180	△248
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,944	△3,227
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,296	26
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△2,763	10,625
現金及び現金同等物の期首残高	15,122	16,841
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△87	25,442
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	41	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,312	52,909

(4) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

1. 事業の種類別セグメント情報

前第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

（単位：百万円）

	ウオッチ 事業	セイコーインスツル 事業	プレジジョン 事業	眼鏡 事業	クロック 事業	その他の 事業	計	消去 又は 全社	連結
売上高									
(1) 外部顧客に対する売上高	76,559	-	21,904	20,335	7,156	11,504	137,459	-	137,459
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	262	-	445	74	1,747	1,900	4,430	(4,430)	-
計	76,821	-	22,349	20,409	8,903	13,405	141,890	(4,430)	137,459
営業利益又は営業損失(△)	4,834	-	△ 703	△ 177	△ 300	△ 2,669	983	644	1,628

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

（単位：百万円）

	ウオッチ 事業	セイコーインスツル 事業	プレジジョン 事業	眼鏡 事業	クロック 事業	その他の 事業	計	消去 又は 全社	連結
売上高									
(1) 外部顧客に対する売上高	48,164	38,873	20,238	18,227	5,306	20,450	151,260	-	151,260
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,316	1,932	1,345	68	1,222	1,416	7,303	(7,303)	-
計	49,481	40,805	21,584	18,295	6,529	21,867	158,563	(7,303)	151,260
営業利益又は営業損失(△)	2,856	1,582	72	△ 287	△ 611	△ 1,026	2,586	(2,560)	26

(注) 1. 事業区分の方法及び変更

- 事業区分につきましては、親会社における連結事業管理体制に基づき行っております。
- 平成21年10月1日付で、当社を完全親会社、当社持分法適用関連会社であるセイコーインスツル（株）を完全子会社とする株式交換の方法により経営統合を行いました。それに伴い、当第3四半期連結会計期間よりセイコーインスツル事業を新たな事業セグメントとして追加いたしております。  
なお、セイコーインスツル事業の資産の金額は203,814百万円であります。
- 連結事業管理体制の変更に伴い、第1四半期連結会計期間より、ウオッチ事業に含めていた（株）クロノスをその他の事業に、その他の事業に含めていたセイコーサービスセンター（株）をウオッチ事業に含めて開示しております。  
この結果、当第3四半期累計期間のこの変更による影響額は、ウオッチ事業の外部顧客に対する売上高が8,003百万円減少、セグメント間の内部売上高又は振替高が1,018百万円増加し、その他の事業の外部顧客に対する売上高が8,003百万円増加、セグメント間の内部売上高又は振替高が1,103百万円減少しております。  
また、ウオッチ事業の営業利益が282百万円増加し、その他の事業の営業損失が170百万円増加しております。

2. 各事業区分の主要商品

事業区分	主要な商品
ウオッチ事業	ウオッチ
セイコーインスツル事業	ウオッチムーブメント、ハードディスクコンポーネント、半導体、水晶振動子 液晶デバイス、電池・材料、データサービス、電子辞書、プリンタ、計測分析装置
プレジジョン事業	情報ネットワークシステム、カメラ用シャッター、半導体
眼鏡事業	眼鏡レンズ・フレーム
クロック事業	クロック
その他の事業	ゴルフクラブ、音響機器、高級服飾・雑貨品、不動産賃貸、設備時計、スポーツ計時機器

## 2. 所在地別セグメント情報

前第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

（単位：百万円）

	日本	アメリカ	欧州	アジア	計	消去又は 全社	連 結
売 上 高							
(1)外部顧客に対する売上高	89,267	15,654	18,135	14,401	137,459	-	137,459
(2)セグメント間の 内部売上高又は振替高	16,565	2	11	20,456	37,035	( 37,035)	-
計	105,833	15,656	18,146	34,858	174,495	( 37,035)	137,459
営業利益又は営業損失(△)	△ 827	△ 372	796	2,212	1,808	( 179)	1,628

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

（単位：百万円）

	日本	アメリカ	欧州	アジア	計	消去又は 全社	連 結
売 上 高							
(1)外部顧客に対する売上高	96,854	12,599	14,423	27,383	151,260	-	151,260
(2)セグメント間の 内部売上高又は振替高	20,544	49	2	20,072	40,669	( 40,669)	-
計	117,398	12,649	14,425	47,456	191,930	( 40,669)	151,260
営業利益又は営業損失(△)	△ 2,616	△ 231	157	2,851	161	( 134)	26

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的隣接度によっております。

2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

(1)アメリカ ・ ・ ・ ・ ・ 北米、中米、南米地域

(2)欧州 ・ ・ ・ ・ ・ ヨーロッパ、アフリカ地域

(3)アジア ・ ・ ・ ・ ・ アジア、オセアニア、中近東地域

## 3. 海外売上高

前第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

（単位：百万円）

	アメリカ	欧州	アジア	計
I 海外売上高	16,603	21,320	26,660	64,584
II 連結売上高				137,459
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	12.1	15.5	19.4	47.0

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

（単位：百万円）

	アメリカ	欧州	アジア	計
I 海外売上高	13,786	18,452	40,660	72,899
II 連結売上高				151,260
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	9.1	12.2	26.9	48.2

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的隣接度によっております。

2. 各区分に属する主な国又は地域

(1)アメリカ ・ ・ ・ ・ ・ 北米、中米、南米地域

(2)欧州 ・ ・ ・ ・ ・ ヨーロッパ、アフリカ地域

(3)アジア ・ ・ ・ ・ ・ アジア、オセアニア、中近東地域

3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域の外部顧客に対する売上高であります。

(6) 株主資本の著しい変動があった場合の注記

当社は、平成21年10月1日付で、当社を完全親会社、当社持分法適用関連会社であるセイコーインスツル(株)を完全子会社とする株式交換の方法により経営統合を行いました。この結果、当第3四半期連結会計期間において資本剰余金が14,322百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が14,770百万円となっております。また、上記と同様の理由により当第3四半期連結会計期間において自己株式が2,380百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が2,985百万円となっております。